

寺 報



第172号  
 発行人 伊勢 徳  
 発行所 真宗大谷派 称念寺  
 知立市新地町西新地65  
 TEL (0566) 83-8888  
 FAX (0566) 84-1262  
 www.shounenji.com  
 印刷 刷 有限会社 クシロ印刷

# 身近な死の回向

先日、仕事中に高校二年の次女から電話があり、「数珠はあるか」と聞かれたので何に使うのか聴き返すと、同級生の通夜に参列するのだと云う。母に借りるよう指示し、帰宅後にその詳細を尋ねた。曰く、昨年同じクラスだった友人が登校できなくなり、その後は音信不通で経緯はわからないが、亡くなったという連絡が入り豊橋まで弔問に行くのだと。同じ親の立場から、ご両親もさぞ苦しまれたであろうと憂い一つ、いち僧侶として彼女には、お棺の中の顔に向き合い、難しいかも知れないけ

れど一言、先に命を終えた友達に何か声を掛け、その後親御さんに自分との関係を含め、短く挨拶をしてきなさいと伝えた。娘は未だ人の死に直面した経験がなかったため、「普通に生きていくけど人間は必ず、本当に死んでゆく」ということを、「命が死ぬのは当たり前」と頭の知識で理解するのではなく、身を以て教えてもらうことが大切な事なのだ と付け加えた。

振り返れば京都の大谷高校に通った頃、私も二度の死別を経験した。一人は自転車で通学中にトラックに轢かれ急

## 報恩講の日程

7:00~ おあさじ	21日(火)	7:00~ おあさじ	22日(水)	23日(祝・木)
	御伝鈔(上巻)	御伝鈔(下巻)	御俗姓拝読	
18:00~	お初夜勤行	8:00~	第1日中法要	第1日中法要
	法話 畠山 浄 師	8:30~	法話① 畠山 浄 師	法話① 海 法龍 師
18:30~	法話 畠山 浄 師	10:00~	大連夜(楽)	ご満座(楽)
		10:45~	法話② 畠山 浄 師	法話② 海 法龍 師
		12:00~	※法要後には「银杏ご飯」の御膳のお齋がござ います。会館にてお召しあがり下さい。	

宗祖・親鸞様の『ご絵伝』四幅は南余間に掛けられます。

令和5年度の年会費は、郵便局から振り込んでください。

(注)22・23の両日に限って、玄関での「受付」で納付できます。

※仏具のおみがき  
15日(水)  
午前9時〜

※おつとめと  
奏楽の練習  
16日(木)・19日(日)  
午後6時〜

※お華講(仏花)  
17日(金)  
午後5時〜

仏花の『芯』は松を  
充当します。季節の花  
を添えます。

※お荘厳(お華束)  
19日(日)  
午前9時〜

五色幕を掛けます。  
高張提灯、玄関幕を吊  
ります。

※お浚え勤行  
23日(祝・木)  
仏具の片付け後  
午後2時〜

逝した同級生で、葬儀の帰途に仲の良かった友人がその不条理に「なんでや」と繰り返し悲嘆していた姿が思い起こされる。もう一人は和氣先生という、世話になった国語教師である。彼は授業を放り出し、映画『火垂るの墓』を生徒に観させ、目に涙を溜めながら平和の尊さを懇々と諭してくれもした。当時私の素行が悪く、職員会議でも問題となり特待生の資格は剥奪、尚も繰り返して謹慎処分となった際も、担任ではないが常に私の味方をしてくれた。結局、他の教師の悪印象は変わらず卒業まで叱責ばかり頂戴したが、彼のみは孤高に「君はきつと大物となる」と信じ続けてくれたのだ。五十の齡まで生きたが、「四面楚歌の人を信じる」ことの大切さを実践し教示してくれた恩師であった。この二人の死は、間違いなく、今の私をお育ていただいた因<sup>いん</sup>であろう。

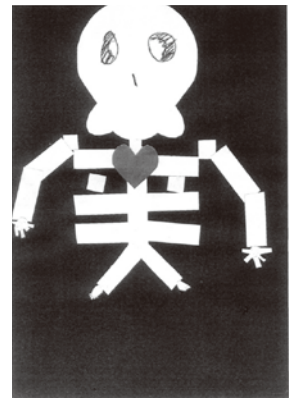
さてしも通夜当日、事務を終えた私は、前日からの寝不



「芋ほり」  
徳風5歳児 山元惺也

足の身体に鞭打ち、スーパード特売のピーマンと青菜を買い出し、甘めの魯肉飯<sup>ルウロウハン</sup>のおかずと厚揚げの煮浸しを作り、食後は皿も洗わず二女の帰宅より先に床に着いた。翌朝、寺の法務前に朝食のアボカドサンドイッチを拵えると、着座した娘から前夜の話聞かされた。式中には、生まれた頃から幼少期、高校時代までの映像が流され、中学までは顔も丸く健康的な様子であったが、マスク姿が目立つコロナ流行の時期から精神を病んだ軌跡を知った。拒食の症状があっ

た為、痩せた遺体の首は極端に細く、顔の頬の内側には綿を詰め、白く死化粧もされていたが、三度も見返すほどに驚いた。案の定、シヨックで故人に掛ける言葉が見つからず、だが初めて見た瓜二つの姉の隣の両親に、しっかりと挨拶して帰って来たそう。私は娘の頑張りを褒め、もし私が先に逝けば同様に、やはり死に顔は選べないのだと教えた。そして、今もいのちを生きるこのの意味に迷いながら歩む娘に、父親でも縁なく授けることのなかった、大事な出会いを与えてくれた故人に私は心中、手を合わせ合掌した。先に亡くなった人が私達に遺<sup>のこ</sup>してくれることは多く、また深い。その最たるは仏法、仏さまの教えを聴聞する縁で



「ガイコツ」  
徳風5歳児 石山心陽

ある。一般的には恩として、腹を痛め産んでくれた、大変世話になった、或いは財産を残してくれた、優しく接してくれた、また故人の生き方や価値観に至るまで様々にあるが、確かに重要な具体的事象ではある。だがそれらは、生きることに直結する、更に言えば常に変わらず根底から私を支えるものでない。どれほどの恩を受けても、挫折や別れ、苦しい時、悲しい時、どうにもならない時、解決や改善する方法がないとき、私達は行き詰まり「こんなはずでなかった」と心折れ、「ああなったら良いのに」などと愚痴を繰り返す。自分の人生を耐え忍ぶ価値が揺らぎ、掛け替えのない「いま生きている瞬間を」ずつと苦しいなら意味がない」と見捨て

報 恩 講

11月21日(火)

午後6時

法話 畠山 浄 師(七尾市)

11月22日(水)

午前8時・10時 法話 畠山 浄 師

11月23日(祝・木) 午前8時・10時 法話 海 法龍 師(横須賀市)



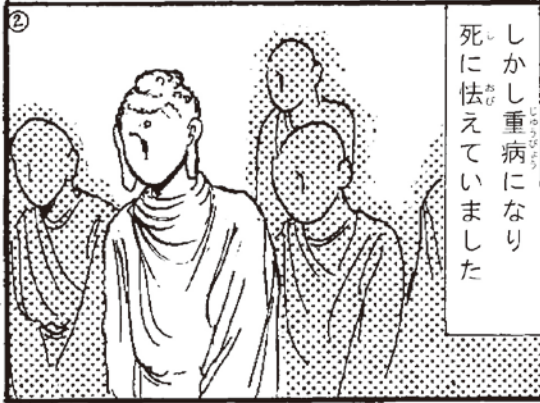
仏典マンガ

絵：小川ゆきえ

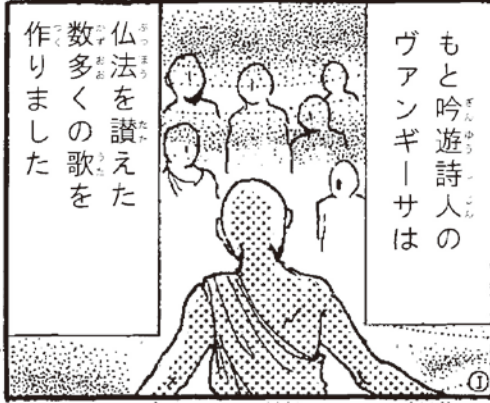
# 仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』 インドの説話集、世界最古の物語集です。

## ヴァンギーサの 最後の歌



しかし重病になり  
死に怯えていました



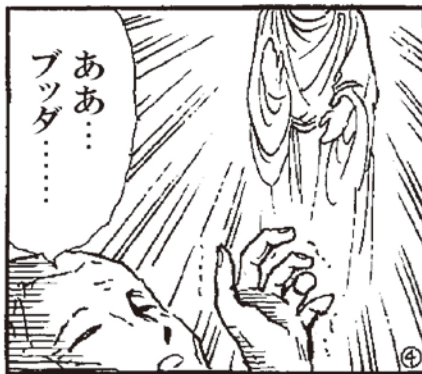
仏法を讀めた  
数多くの歌を  
作りしました

もと吟遊詩人の  
ヴァンギーサは

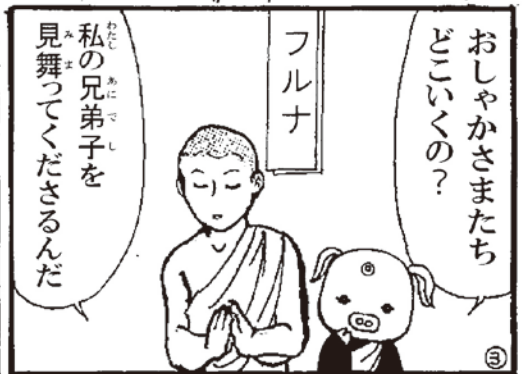


ヴァンギーサ  
汝は間もなく  
涅槃に入るだろう

心は  
安らかか？



ああ…  
ブツダ…



おしゃかさまたち  
どこいくの？

フルナ

私の兄弟子を  
見舞ってくださいるんだ



如来の慈悲に  
遇った今  
心に巣くう  
疑念消え



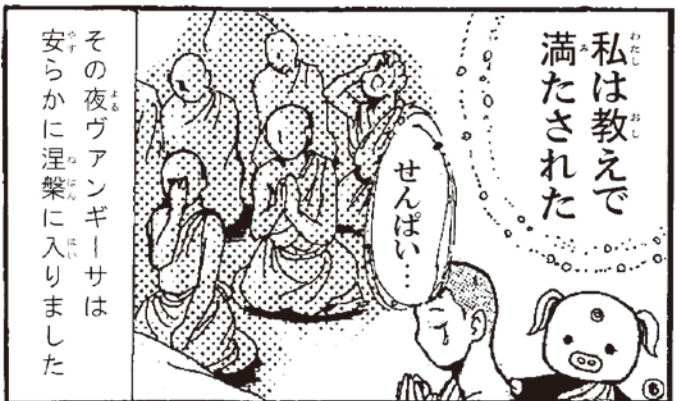
今はただ  
涅槃を待つ  
喜びに  
あふれています

世尊よ  
あなたと多くの友に  
看取られ  
私の心はとても  
安らかです



多くの人に  
仏法を  
伝えました

ヴァンギーサの歌は  
現代まで歌い紡がれ



その夜ヴァンギーサは  
安らかに涅槃に入りました

私は教えで  
満たされた

せんばい

よう。二千五百年前に生きたブツダ釈尊は、いのちを見つめ、その煩惱と自我をして、人間は大事を見失う存在だと目覚められたのであった。

願い通りの調子の良い時に、天上来から世界を見下ろす眼には見落としが多いが、底辺からの景色には真実味がある。病氣になって初めて、当たり前にしていた健康の有り難さを知る。地獄に突き落とされ、追い求めた金も趣味もグルメも人生の助けにならないと実感する。経験上、苦しい時にこそ傲慢が崩れ、身近な人の存在の大事さ、またその言葉が身に染みる。人は皆、「自利」で生きており、無意識に自己のみの都合に立つが、しかし本当は常に様々な人に支えられて在る私だ。支えられるとは、声を聞いてくれる、ただ其処に在る、私を呼んでくれる、それだけでいい。だからこそ関係性を超え、私達がまま「利他」の存在に転ぜられ得るのだと、幾度の苦境から教えられてき

たように思う。

死について、報道を眺め子供を含め何千人死にましたとスマホ片手に聞き流すのと、共に時を過ごした一人の現前たる死に向き合うのは、その意味が違う。我々大人ですら、愛する人を失い初めて、代わる者が無いことに気付かされる。若者が死に向き合い、もう二度と生きて会うことの無い今生の別れの厳粛さ、生まれた時から自分の選択が及ばず志半ばで終える命の意味、これから何度も経験するであろう死別と必ず迎える自らの死という、身の事実を受け止めること。誰もが「生死一如」、これこそ真剣に自分の命を全うする根幹なのだ。けれども必ずまた忘れ、「とりあえずは」という生き方に埋没し、感動も感謝も見失う私達の無明に、本堂や仏壇という照らされる場が継承されてきた。その最も重大な確かめとして今年も報恩講が勤まるのであろう。

「文章 若院」

■娑婆の縁

伊奈洋二 吉良道 8  
 神谷由子 広見 9  
 渡邊 功 刈谷市 11  
 加藤良一 山町 16  
 野村正巳 内幸町 17  
 鈴木一弘 山町 20  
 木村竹男 桜木町 30  
 水野洋子 鳥居 10  
 16 6

■祠堂 永代経のご志納

・宮 啓 様 豊明市  
 ・野村 俊也 様 内幸町

■報恩講

今年も宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講をお迎えさせていただきます。お念仏のみ教えに遇い、生きる拠り処を問い尋ねるご縁を大切にして、親鸞さまのご遺徳を偲びます。  
 ①22・23日の報恩講のお斎には、銀杏ご飯を用意いたします。お昼に会館で、お斎の席でお召し上がりください。

また両日ともバック詰めも用意しますが、お渡しできるのが午前9時頃となりますので、お持ち帰りの方については、ご理解下さいますようお願いいたします。

②仏花は、池坊流で仕立てるのが基本。春夏秋冬、四季折々の材を用いて構成するが、報恩講の仏花は格調高く「松仕立て」が一番であろう。しかしこの松には例年、戸惑うことが多い。準備前から思案させられる。

③最も大切な仏事であるため、卓・香炉・仏飯・内敷・蠟燭・お香など、この行事にあたってのみの什物を入れ替え並べます。※荼毘に附された「お骨」は、墓に納める



骨箱

大きくて四角い箱と、本山 東本願寺に収める小さい六角形の紙箱の2種類がある。本年に寺で預かった「歯骨」は、親鸞聖人の本廟にお届けします。ご命日の11月28日に。この日は海外からの門徒さんが見受けられ、英語圏の方々の接待・案内役として、毎年前日から上洛するのが若院です。28日には、本山・参拝部にて収骨手続きを代行します。 [住職]

■除夜の鐘

大晦日 午後11時45分頃

■修正会

元日(祝日) 午前0時

■第20組聞法会

1月9日(火)  
 午前10時〜正午  
 法話 西田 眞因 師  
 会場 称念寺本堂  
 当日受付 聴講500円

■春彼岸法要

3月20日(祝・水)  
 午前8時・10時  
 法話 沙加戸 弘 師